

半年ぶりの里帰り

青年海外協力隊 OG(パンパグランド市環境教育隊員)

城井 香里



【同僚たち。右横がパンパグランド市長】

パンパグランド市で青年海外協力隊として活動を行っている時期に、DIFAR を通じて地球環境基金の助成を受け、ごみの分別や環境教育を行い、今年の3月に任期を終え、日本に帰国しました。

それから半年。9月に同じ空港に降り立ちました。パンパグランド市長をはじめ、たくさんの友達が私を迎えてくれました。

滞在中に活動の拠点だった事務所やコンポスト場を視察しました。コンポスト場ができたのは昨年10月下旬で、完成までは同じ敷地

内の元・豚小屋をコンポスト場として使用していました。

昨年の12月から市場での生ごみ回収を本格的に開始したのですが、3月頃はコンポストの山が2つある程度でした。その半年後は…驚くほどたくさんの量のコンポストができており、場所が足りないくらいでした。



【元・豚小屋を活用したコンポスト場】



【一番左:アレックス、左から2番目:ロサ】

ボリビアの市役所はいつ解雇され

てもおかしくないほど雇用が不安定なのですが、一緒に働いていた同僚のアレックス(農業牧畜課。基金では主に農薬容器の回収事業担当)やロサ(廃棄物課。環境教育や分別回収担当)も継続して勤務しており、事業の継続ができていました。また、クラウドファンディングで購入したトラックも健在で、資源ごみの回収業務をきちんとこなしていました。

市場の近くの生ごみ集積所で分別されて集められた生ごみを見せてもらいました。ビニール袋など、生ごみでないものを間違えて入れていることがあるので、それを少なくしていくことが課題だとロサが言っていました。

また、バジェグランデで行っているように市場の方々へ一人ずつ蓋つきの生ごみストック用バケツを配布したのですが、それをきちんとその用途に活用している人が少ないことも課題だと言っていました。昨年度1年間は計画通りできるように私が管理していたのですが、今年度はスケジュール管理が難しそうです。とはいえ、計画より



【生ごみ集積所。市場で集めた生ごみを一時ストックして、コンポスト場へ運びます。】

遅れていますが、なんとか頑張っている状態です。日本人は、計画を実行することの責任感が強いなあと日本で働きながら、そして今回の一時里帰りで実感したのでした。

物事を継続する、推進するのは常に課題がつきものです。この課題に向き合っても時間が経っても一歩ずつ進んでいってほしいと思います。



【クラウドファンディングで購入したスズキのトラック。後ろにストッパーが付いて、バージョンアップしていました。】